

<平成30年度 ハローオリピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 三郷市立南中学校







平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備運動（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 【実施内容】

■期 日 : 平成30年5月15日 (火)

■ク ラ ス : 2年2組 (36名)

■オリンピアン : 藤丸 真世 先生 (水泳・シンクロナイズドスイミング) 【出場オリンピック／アテネ大会】



## ■授業のながれ：運動の時間（1時限）

### 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・藤丸先生から簡単に自己紹介をした後、シンクロナイズドスイミングは現在アーティスティックスイミングに名称が変わっていることを紹介し、競技を知っているか問いかける。
- ・床に仰向けになってシンクロナイズドスイミングの姿勢を体験した後、準備体操を実施。その後、班ごとに横1列に並び、音楽に合わせて列を乱さず走るランニングプログラムを実施。

### 2. 準備体操



### 3. 主運動



- ・3チームに分かれて8の字跳びを実施。引っかけたら0から数え直し、90秒間で連続して跳べた回数を競う。全3回実施し、各回終了後に作戦タイムを設け、記録を伸ばす工夫をチームごとに話し合うと、全チームが3回目に最高記録を更新することができた。
- ・藤丸先生から工夫した点を数えると、「回す人のリズムに合わせて跳んだ」、「作戦タイムで話し合ってチームワークを高めた」「前を跳んでいる人にタイミングを合わせた」、「リズムを意識して跳んだ」等の意見が挙げられた。

### 4. まとめ



- ・藤丸先生からランニングプログラムや8の字跳びを通じて、仲間と協力することの大切さや相手のことを思いやる気持ちを感じることができたか確認。
- ・座学の時間では、運動の時間に感じたこととオリンピックがどう結びつくのかを考えようと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・藤丸先生が出場したアテネ大会の映像を見せながら、競技について説明。
- ・競技を始めてからオリンピックに出場するまでに藤丸先生が経験したオリンピックバリューについて説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：自分が目標にしていること、目標を達成するために実践していることを書き出してみよう。
- 発表：部活でベストを尽くすために毎日の部活以外でも自主練習を欠かさず行う、テストでいい成績をとるために毎日30分勉強する、県大会に出場するために毎日練習を重ねてコツコツと努力する(エクセレンス)、チームメイトと一緒にプレーすることを大切にする(フレンドシップ)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・2020年には東京でオリンピックが開催されるので、ボランティア等皆ができることに積極的に参加してほしいと伝える。
- ・最後にアテネ大会で着用した水着や銀メダル等を見せ、今日の授業で学んだオリンピックバリューを忘れずに、今後の人生にも活かしてほしいと伝え、授業終了。

# 【実施内容】



- 期 日 : 平成30年5月15日 (火)
- ク ラ ス : 2年1組 (36名)、2年3組 (37名)
- オリンピアン : 鶴岡 剣太郎 先生 (スキー・スノーボード) 【出場オリンピック/トリノ大会】

## ■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

### 1. 自己紹介～授業の目的確認



・鶴岡先生から簡単に自己紹介をした後、今日の授業では3つのオリンピックバリュー(エクセレンス、フレンドシップ、リスペクト)について知ってもらいたいと伝え、運動の時間では①全力で取り組むこと、②クラス全員で協力し、相談しながら取り組むこと、③人の話をよく聞いてルールを守ることの3つを約束し、オリンピックバリューについて頭に入れてながら取り組んでほしいと話し、準備体操に移る。

### 2. 準備体操



### 3. 主運動



・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを全3回実施。引っかけたら0から数え直し、90秒間で連続して跳べた回数を競う。鶴岡先生からは「相手チームのことも敬うこと」を意識するようアドバイス。  
・各回終了後に作戦タイムを設け、回数を増やす工夫を話し合うと、3回目に全チームが最高記録を更新することができた。  
・2回目と3回目では何が変わったのかを問いかけると、「協力し合うことを意識した」、「スピードを上げることを意識した」等の意見が挙げられた。

### 4. まとめ



・授業冒頭の3つの約束を守れたか確認。全チームが1回目よりも3回目に記録を伸ばすことができたことを称え、成功してもその先に進むために何をしなければならぬかを考える向上意欲の大切さを伝える。  
・座学の時間では、運動の時間に感じたこと、考えたこととオリンピックがどう結びつくのかを考えようと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・運動の時間を振り返り、オリンピックがどのようなものかを感じることができたか問いかけ、座学の時間では、オリンピックを普段の生活にどのように活かせるのか、今後自分で立てた目標に対してどのような気持ちで取り組みたいかを考えてほしいと授業の目的を確認。
- ・トリノ大会の映像を見せながら、スノーボード競技について紹介し、鶴岡先生にとつてのオリンピックバリューを説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：運動の時間の行動をオリンピックバリューに当てはめてみよう。
- 発表：失敗しても声を出し合い全力で挑戦できた、全力で諦めずに頑張れた、気持ちを切り替えることができた(エクセレンス)、皆で話し合うことができている結果に繋がった、一致団結できた、アドバイスし合えた(フレンドシップ)、挨拶ができた、相手チームにも拍手を送ることができた、鶴岡先生に感謝(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・今日学んだオリンピックバリューは普段の生活でも活かすことができるので、グループワークで挙げてもらった意見は今後の人生の教訓として大切にしたいと伝える。
- ・クーベルタンの言葉を引用しながら、これからの人生で上手いかわないことや失敗を経験しても、どれだけ全力で、本気で取り組めたかが大切なので、高校受験の時には今日学んだこと、考えたことを思い出して、自身で選択し、挑戦し、努力してほしいと伝え、授業終了。

■ 集 合 写 真

2年1組



2年2組



■ 集 合 写 真

2年3組



■ 記 念 品 贈 呈

2年1組



2年2組



2年3組



■ 修 了 書 贈 呈

